

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 2 〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
(3) チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成
生体機能回復支援領域 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士)

整理番号

2 2

申請担当大学名 (連携大学名)	長崎大学
事業名	高度リハビリテーション専門職の養成
事業責任者	医学部保健学科長 田中 悟郎
事業の概要	
<p>1. チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム：1年次から4年次まで段階的に他専攻や他学部等との共修科目（講義、演習）を配置するとともに、現場経験を暴露するための統合ケア実習を設け、チーム医療推進の基礎を修得する。また、大学病院やその他の実習病院の臨床実習指導者を非常勤講師に任用し、臨床実習前教育の充実を図る。そして、地域包括ケアの中でチームアプローチを実践できる理学・作業療法士を輩出する。</p> <p>2. 高度リハビリテーション専門職養成プログラム：臨床指導者養成教育コース；OJT やクリニカルクラークシップの実践のみならず、長崎大学保健学実践教育研究センターのモニタリングシステムによって実習内容の評価・改善を行い、質の高い臨床実習指導者を輩出する。地域包括ケア人材養成コース；地域ケア会議への参加やケアマネジメントの実践を通して地域包括ケアをマネジメントできる高度な理学・作業療法士を輩出する。</p>	
<p>推進委員会からの主なコメント：優れた点等、：充実を要する点等</p>	
<p>高齢社会の進展とともに地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割が重要視されているが、養成教育の現状は期待に十分応えられる状況にはないことから、本事業における着眼点は時宜にかなったものとして評価できる。</p> <p>チーム医療実践教育として1年次から4年次まで段階的に他専攻や他学部等との共修科目を配置し、チーム医療推進の基礎を修得する点は、学生のうちからのチーム医療への意識向上に有効であり、評価できる。</p> <p>現場経験の暴露を目的とした統合ケース実習は、学生が自ら目指す職業への実際のイメージ把握に有効と思われ、評価できる。</p> <p>事業の評価指標として具体的な数値目標を掲げていること、かつ対象とする専門職数も多いことから、本事業による効果が期待できる。</p> <p>リハビリテーション専門職のキャリア形成の面から、共有するフィールドもあると考えられるので、その観点からもプログラムを検討することが望ましい。</p> <p>実習指導者養成コースで実践センターが実習内容の評価・点検しフィードバックするという方法は若手指導者の育成には有効と思われるが、実習指導者は臨床で日々の業務に従事する以外に実習指導を引き受けるという現状があり、熱心な学生指導が通常業務に支障を来すことのないよう、臨床現場の事情を考慮した上で、実習内容の評価・点検・フィードバックが行われるよう留意が必要。</p> <p>評価はプログラム評価委員会が行うことになっているが、外部評価者の採用を含めプログラムの評価体制を明示することが望ましい。</p>	